

新しい絆

シリーズ～神の国～

2013/7/17

マルコ福音書5章25～34節

さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった。イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服に触れた。「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体を感じた。

イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。そこで、弟子たちは言った。「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておられた。女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。イエスは言われた。「**娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい。**」

12年間病で苦しんだ女性

- 「出血」は命に関わる病であると同時に、神と人との交わりを絶たれる病である
 - 出血は汚れたものである〈レビ記・旧約聖書〉
- 12年間この病と闘い、医者から苦しめられ、全財産を使い果たした
 - ただ治らなかつただけではなく、苦しめられ、これ以上何もできない状況に追い詰められた
- 悪くなる一方だった
 - 将来の希望も失っていた

一縷(いちる)の望み

- イエス様が近くに來られることを知った
 - この方は多くの病人を癒したと聞いた
- 是非自分も癒してもらいたいが、彼女の所
に來てもらおうよう頼む人がいない
 - 12歳の少女のために父が頼みに來ていた
 - 彼女は人混みに出て行くことは許されない
- 人混みに紛れてイエス様に近づこう
 - 祈ってもらおうことはできないが「**服にでも触れればいやしていただける**」と信じて近づいた

癒された女性

- 人混みで必死でイエス様に近づいた女性
 - 誰かに見とがめられないか恐れながら…
 - 群衆がヤイロの娘の癒しを見ようと、集まった
- 後ろから, イエスの服に触れた」女性
 - 群衆をかき分けるのは容易なことではない
 - 通り過ぎようとしたイエス様にかろうじて触れた
- その瞬間, 完全に癒されたことを感じた
 - 何も頼まなかったのに, 願いが叶った!

異変に気付かれたイエス様

- イエス様は自分の内から力が出て行ったことに気づき、「振り返って」「誰だ?」と言った
 - 弟子たちは、バカげた質問だ、とあきれた…
- 女性は名乗り出て、すべてを話した
 - 「震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した」
- イエス様は彼女の「**信仰**」をほめ、励ました
 - 「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしたさい。」

新しい絆

- 神は群衆ではなく**個人**を見ておられる
 - 気付くはずはない,と弟子たちは思ったが…
- 神はあなたの「**信仰**」を見ておられる
 - あなたの過去でも,人となりでも,業績でもない
 - 神には癒す・解決する・救い出すことができる
 - 神だけを頼っているか?
 - **<他にも頼っていないか?>**
 - 神とつながることだけを求めているか?
 - 「**恐れることはない。ただ信じなさい**」5:36